

## 2017 年度(平成 29 年度)事業報告

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

### 1. はじめに

日中関係は昨年 7 月ハンブルグで行われた G20 サミットと 11 月にベトナムダナンで開かれた APEC 期間中に安倍晋三首相と中国習近平国家主席の首脳会談が開かれ、また、中国からの訪日旅行者が 735 万人に達するなど、関係改善が着実に好転しつつあります。

### 2. 日中友好交流都市中学生卓球交歓大会

(公社)日中友好協会、(公財)日本卓球協会、中国人民対外友好協会、中日友好協会、中国卓球協会は「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」を 8 月 4 日から 6 日まで、北京市の国家オリンピックセンター体育館で開催した。この大会は 1992 年から 5 年ごとに開催している卓球大会で、日中両国の友好都市が合同チームを組み対戦する一大友好交流イベントである。今大会は全国から全 67 チーム 321 名(日本側人数。監督、コーチ含む)の参加となった。

明けて 8 月 4 日、国家オリンピックセンター体育館(国家オリンピック体育中心体育館)では、(公社)日中友好協会から丹羽宇一郎会長、中日友好協会から唐家璇会長、中国人民対外友好協会からは李小林会長、駐中国日本大使館から横井裕大使らが出席の上開幕式が開かれた。開会に先立って李小林会長は挨拶の中で、1971 年に名古屋で行われた世界卓球大会をきっかけにした、いわゆる「ピンポン外交」に触れ、「小球(ピンポン球)が地球を動かした」と、日中の卓球交流の歴史と意義深さを改めて強調。続く丹羽宇一郎会長も今大会への日中双方の尽力に謝意を示したのち、参加選手のさらなる成長、参加都市のさらなる交流に期待を示した。続いて唐家璇会長から力強い開幕宣言がなされ、3 日間に及ぶ激戦の幕が切って落とされた。

8 月 6 日は午前中に決勝トーナメント第 1 試合と第 2 試合、午後からは決勝戦が開催された。予選リーグを勝ち抜いた 32 チームは、抽選によって 8 チームずつ 4 つのブロックに分かれ、それぞれにトーナメントを開催、4 チームの優勝チームを選出した。

### 3. 日中女性フォーラム

「日中女性フォーラム ～未来志向の日中民間交流～」が 11 月 4 日、東京・新宿区の日本青年館ホテルで開催された。日中国交正常化 45 周年を記念して(公社)日中友好協会が主催し、同全国女性委員会のメンバーを中心とした実行委員会が主管した。当日は、日本各界の女性活動家のほか、中国の中華全国婦女連合会(婦女連)や中日友好協会のメンバーで編成された代表団を含む約 360 人が参加し、女性が輝ける社会のあり方について考えた。

フォーラムは、駐日中国大使館や朝日新聞社などが後援し、株式会社 NTT データが特別協賛した。開会に先立ち、主催者を代表して協会の丹羽宇一郎会長があいさつし、「今、世界中のあらゆる分野で『鉄の天井』『ガラスの天井』と言われているが、日中の女性の活躍は『青天井』である。今日のフォーラムが起点となり、大きく、天高くなることを期待している」と述べた。

続いて石黒かほる・協会全国女性委員長があいさつに立ち、「日中友好協会全国女性委員会は、『中国と良き隣人でありたい』との一心で活動が続けてきた。今日は女性が輝ける社会を考えながら、中国と

の友好関係をさらに発展させるステップにしましょう」と呼びかけた。

来賓を代表してあいさつした王秀雲・中日友好協会副会長は「フォーラムを通じて中日間の女性交流のあり方を模索し、共通理解を深めてほしい」と期待を寄せた。フォーラムではまず基調講演が行われ、野田聖子総務大臣（兼女性活躍担当大臣）が「未来を拓く女性活躍」と題して、汪婉・駐日中国大使夫人（友好交流部参事官）が『『女性力』を100%発揮しよう』と題して、それぞれの視点で女性の社会進出などについて講じた。野田総務相は30年におよぶ政治家としてのキャリアの中で、女性という立場で感じた困難だったことや、今年4月に女性の国会議員のみで訪中団を組んで北京を訪れたことなどについて、時にユーモアを交えながら話した。一方、汪婉大使夫人は、中国社会における女性の社会進出の現状や、公務で日本各地を訪れて感じたことなどを紹介した。いずれの講演も、参加者の多くがメモを取るなど熱心に聞き入った。

その後は、交流事業や報道の分野などで活躍する日中双方5人のパネリストによるシンポジウムが行われ、女性の活躍とその重要性、役割に対するニーズ、女性の社会進出のために求められる具体策などについて日中民間交流を切り口に話し合われた。

#### 4. 何香凝芸術名作展

日中国交正常化45周年を記念して（公社）日中友好協会と何香凝美術館（中国・深圳市）が共催した「何香凝芸術名作展」（協力：女子美術大学）が、9月6日から15日まで東京・上野の森美術館で開かれた。

10日間で延べ3553人が来場し、中国女性活動家と画家の二足のわらじで活躍した何香凝の生涯に理解を深めた。外壁に大きな告知広告が設置された上野の森美術館の会場には、1階と2階に分けて何香凝の絵画40点とその生涯をたどる写真12枚が展示された。孫文の片腕とされた夫の廖仲愷と来日し、女子美術学校（現女子美術大学）で学んだ何香凝について興味をもつ人は多く、日帰りツアーを組んで訪れた地方協会もあった。

開催前日の5日午後には開幕式が開かれ、丹羽宇一郎・協会会長、郭燕・駐日中国大使館公使、許玉明國務院僑務弁公室宣伝局局長、任克雷・何香凝美術館館長、福下雄二・女子美術大学理事長らが出席しテープカットなどを行った。

丹羽会長はあいさつで「日中交流に大きく貢献した何香凝先生の業績を知ってもらうことは大変意義深い。この機会にぜひ日中交流の歴史に思いをはせながら鑑賞してほしい」と呼びかけた。一方、郭燕公使は「彼女の芸術創作は中日両国人民の友好的感情と中日文化の交流・融合を体現している」と述べた。

当日は酒井哲夫・橋本逸男両副会長、岡崎温理事長、西堀正司専務理事ら協会役員・会員の多くが出席した。

#### 5. 日中友好卓球大会

（公社）日中友好協会、（一社）東京華僑総会、（一社）東京華助中心が日中国交正常化45周年を記念して共同で開催した「日中友好卓球大会」が10月7日、東京・江東区の有明スポーツセンターで開催された。在日華僑・華人を中心とした日中両国の卓球愛好家が3人1組でチームを作って参加、88チーム総勢264人が試合を通じて友好の汗を流した。

大会は、男女・年齢を問わない3人一組の混合チームで競い、試合は11本先取の3ゲームマッチ。4チーム総当たりの予選リーグを戦い、その後はそれぞれの順位ごとのトーナメント戦を行って順位を決めた。審判は東京都卓球連盟のスタッフが務めた。

大会準備は実行委員会が組織し、岡崎温・協会理事長、林斯福・東京華僑総会会長、顔安・全日本華僑華人連合会会長の3人が実行委員長を務めた。

88チームの頂点に立ったのは、高校時代の卓球部仲間で結成された男性20代の「横浜中華街チーム」。3カ月前に一度集まって練習を行っただけだったが、仲の良さからか、ダブルスでも息はバッチリだったという。閉会式の表彰式では、45周年記念にちなんだ「45歳賞」や「申し込みが1番だった賞」などユニークな賞が景品と共に贈られた。協賛企業の全日空からは中国旅行往復ペアチケットが提供され、参加者全員が対象の抽選会も行われた。

当日、中心となって大会の進行役を担った元卓球世界王者で実行委員の木村興治・日本卓球協会名誉副会長は、「45年前の国交正常化の影で卓球は大きな役割を果たした。今日、45周年を祝う記念すべき卓球大会を東京で開催できたことは大変に素晴らしいことだ」と述べた。

## 6. 協会の組織運営

(1) 今年度は、定時総会1回、理事会3回（定例理事会3回）、業務執行理事会3回を開催した。

第8回定時総会（6月15日開催）は2016年度事業報告と収支決算報告を承認した。

第28回定例理事会（1月18日開催）は2018年事業計画と収支予算を承認した。

(2) 2017年度末現在、42の都道府県日中友好協会（以下県協会と略す）が入会している。休会は徳島県1県、未入会は群馬県、宮崎県の2県。未組織は島根県、長崎県の2県である。

(3) 青年委員会等及び女性委員会等のある県協会は次のとおり。

青年委員会等：北海道、宮城県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、京都府、大阪府、和歌山県、岡山県（11県協会）

女性委員会等：北海道、宮城県、秋田県、山形県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、熊本県、大分県（20県協会）

(4) 日中友好秋季セミナー

（公社）日中友好協会は11月18・19日、静岡県伊豆市のラフォーレ修善寺で第4回日中友好セミナーを駐日中国大使館と合同で開催し、最近の日中情勢や活動状況などについて意見を交わした。

当日は、橋本逸男副会長ら協会役員および各地の会員ら38人と、程永華大使、汪婉・倪健・景春海の参事官3人をはじめとする駐日中国大使館員24人が参加。さらに、中日友好協会の程海波副秘書長、張孝萍友好交流部部长、鄭李旦政治交流部副部长の3人が中国から参加した。

夜は懇親会が催され、川勝平太知事ら静岡県庁関係者並びに菊地豊伊豆市長が来賓として出席した。セミナーは中国大使館が後援し、静岡県日中友好協会が協力。大使館各部門の若手外交官が多く参加した。

(5) （公社）日中友好協会全国青年委員会再建総会

（公社）日中友好協会全国青年委員会の再建総会が11月18日、静岡県伊豆市のラフォーレ修善寺で開催された。同再建準備委員会のメンバーおよび協会役員らが出席した。

冒頭、協会組織委員会副委員長の小野寺喜一郎常務理事が再建の経緯を報告し、「10月の定例理事会で青年委員会の再建が正式に承認されたが、その際に私から理事に対し、青年みずからの自由な発想と行動で日中友好活動を盛り上げていくことをどうか認めてあげてほしい。寛大な心で受け止めてほしいとお願いし了承を得ている」と述べた。

その後は、再建準備委員長を務めてきた東京都日中友好協会青年委員長の永野剛氏が議長に選出され、議事では主に「概おおむね40歳代までを青年とする」ことや、「国内外の青年団体との相互交流を行う」ことなどを盛り込んだ会則などについて話し合った。役員選任では、東京都日中友好協会前青年委員長の伊藤洋平氏が委員長に、永野剛氏が事務局長に選出された。副委員長については後日、東京都および地方の青年委員会から複数名を選ぶことを決めた。

今後は、大学生訪中団の参加経験者や留学生OBなどを取り込んだ事業などを中心に、青年層の会員拡大を目指していく。

## 7. 青少年交流

### (1) 第8回宋慶齡国際青少年交流キャンプ

中国宋慶齡基金会（北京市）が主催する「第8回宋慶齡国際青少年交流サマーキャンプ」が7月16日から23日まで行われ、日本を含む世界15カ国の青年が北京に集結した。日本の窓口を協会が担い、国際基督教大学高等学校（東京・小金井市）の生徒10人を派遣した。

イベントでは「イン・チャイナ・ビー・フレンズ」のスローガンの下、グループ分けされた世界各国の学生がアイスブレイク、中国文化体験、仮面パーティーなどの活動を通して交流した。

### (2) 日中友好大学生訪中団

2017 日中友好大学生訪中団友好協会分団

期間 8月27日～9月2日、訪問都市 北京、成都、上海

人数 107名（大学生99名、団役員事務局8名）

受入 北京市人民対外友好協会

※北京（北京大学）および成都（西南交通大学）にて中国の大学生と交流。

## 8. 文化、教育、学術などの諸分野の交流とミッションの派遣・受入等

### (1) 訪中団等の派遣

7月16日～23日	第8回宋慶齡国際青少年交流キャンプ参加訪中	11名
8月4日～6日	日中友好交流都市中学生卓球交歓大会	321名
8月27日～9月2日	2017 日中友好大学生訪中団友好協会分団	107名
9月7日～9日	中日国交正常化45周年記念レセプション	3名
3月7日～11日	第35回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会優勝者	3名

計5団 445名

### (2) 訪日団等の受入

11月3日～5日

日中女性フォーラム

12名

計1団 12名

(3) 中国の関係機関との交流

- 4月10日 \*大連東軟信息学院国際教育学部一行来訪
- 5月30日 \*楊潔篋国務委員歓迎会夕食会
- 6月5日 \*何香凝美術館、女子美術大学との打ち合わせ(～6日)
- 6月10日 \*袁敏道中日友好協会秘書長一行来訪
- 7月13日 \*2017年北京青少年キャラバン訪日団歓迎会
- 7月31日 \*中日青年交流中心一行来訪
- 8月2日 \*何香凝美術館一行来訪
- 9月7日 \*「JENESYS2017」2017年度中国高校生訪日団第1陣歓迎会
- 9月12日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団第1陣(地方間交流)歓迎会
- 10月17日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団第2陣(地方間交流)歓迎会
- 10月26日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団第2陣(5つの協力分野)歓迎会
- 11月8日 \*「JENESYS2017」2017年度中国高校生訪日団第2陣歓迎会
- 11月19日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団第3陣(スポーツ)歓迎会
- 11月24日 \*中国共産党第十九回全国代表大会説明会
- 11月29日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団第2陣(5つの協力分野)歓迎会
- 12月6日 \*「JENESYS2017」2017年度中国高校生訪日団第3陣歓迎会
- 12月7日 \*「日中植林・植樹国際連帯事業」中華全国青年連合会代表団(5つの協力分野)歓迎会
- 1月22日 \*中国全人代陳竺副委員長一行との懇談夕食会
- 1月24日 \*大連市中日友好協会于建軍会長一行来訪
- 1月29日 \*「JENESYS2.0」2017年度中国青年代表团、第22回中国教育関係者代表団歓迎会
- 3月6日 \*程海波中日友好協会副秘書長一行来訪

(4) 在日中国機関との交流

- 4月7日 \*大使館友好交流部との打ち合わせ
- 4月25日 \*大使館友好交流部との打ち合わせ
- 7月26日 \*程永華在日中国大使との懇談
- 7月27日 \*「2017チャイナフェスティバル」事業発表会
- 8月18日 \*2017年度中国政府奨学金生壮行会
- 9月28日 \*中華人民共和国成立68周年及び中日国交正常化45周年  
祝賀レセプション
- 10月21日 \*「チャイナフェスティバル2017」開幕式
- 11月10日 \*「チャイナフェスティバル2017」お疲れ様会
- 11月22日 \*錦秋交流の夕べ
- 12月8日 \*2017年中国留学経験者の集い
- 12月12日 \*中国大使館友好交流部汪婉参事官訪問
- 1月16日 \*中国大使館友好交流部汪婉参事官訪問
- 1月26日 \*2018迎春会（賀詞交歓会）及び中日平和友好条約締結40周年  
記念イベント
- 1月28日 \*日本吉林商会【中日経済フォーラム】、日本吉林同郷会設立20周年  
記念祝賀会
- 2月2日 \*2018年中日教育交流新年会
- 2月8日 \*2018年中国大使館・日中友好団体新年会
- 2月26日 \*劉少賓駐日中国大使館公使来訪

(5) その他

- 5月10日 \*窓に咲く花ー中国剪紙展開幕式
- 6月26日 \*香港返還20周年記念写真展開幕式
- 7月6日 \*オペラ「鑑真東渡」東京公演
- 9月20日 \*「中日国交正常化45周年 民間交流回顧写真展」開幕式
- 10月27日 \*多彩貴州特別鑑賞会
- 11月1日 \*日中国交正常化45周年記念『禅海游逸』純一芸術展
- 11月13日 \*2017伝統と現代アートの5人交流展“和吟東西”展開幕式
- 12月4日 \*「好夢麗江～探古東巴紅」中国当代民族画家劉立群作品日本展開幕式
- 1月24日 \*「中国剪紙文化ー剪紙で見る春節の楽しさ」開幕式
- 2月2日 \*上海現代竹彫刻精品展開幕式

## 9. 留学生派遣事業

### (1) 2017 年度公費留学

中国教育部及び中国大使館教育部の協力のもとに、中国政府奨学金を受給する公費留学生を選考し、20 名を中国各地の大学に派遣した。留学期間は 1 年間。

4 月 18 日 中国大使館教育部に公費留学申請書提出。

7 月 29 日 中国大使館教育部より入学許可書を受領。

8 月 11 日 中国留学研修会を開催。

8 月 18 日 中国大使館教育部は「2017 年度中国政府奨学金日本人留学生壮行会」を開催。

8 月下旬から 9 月上旬 派遣先にて留学開始。

### (2) 2018 年度公費留学派遣

1 月 15 日～2 月 5 日 出願受付（応募者数 43 名）

一次選考（書類審査）

3 月 4 日 二次選考（面接試験）、20 名を内定。

## 10. 中国語普及事業

### (1) 第 35 回全日本中国語スピーチコンテスト

「第 35 回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会」が 1 月 7 日、東京・文京区の日中友好会館大ホールで開催され、日中平和友好条約締結 40 周年の節目となる今年最初の記念事業として盛り上がりみせた。

21 の都道府県大会を勝ち抜いた 22 人が 3 部門に分かれて登壇。「日中友好」への思いを中国語で披露し、学習の成果を競い合った。大会には、高校生部門 6 人、大学生部門 10 人、一般部門 6 人が出場し、5 分間のスピーチと質疑応答で競い合った。外務省、文部科学省、駐日中国大使館などが後援し、各部門の第 1 位には副賞として中日友好協会から中国旅行が贈られ、協賛の全日空が航空券を提供した。

開会に先立ち橋本逸男副会長が主催者を代表してあいさつし、「日中間には長い交流の歴史があるが、相手を深く、よく知ることがもっと必要。中国語学習は重要になる」と述べた。審査員長を務めた平井和之・日本大学教授は「条約 40 周年という節目の大会を例年以上に盛り上げてほしい」と激励した。

大会は条約締結 40 周年の節目にふさわしいハイレベルな争いに。高校生部門では、中国語学習を始めたきっかけや上達の喜び、東京五輪を見据えた夢を力強く語った茨城県代表の田中美咲さん（東洋大附属牛久高校 3 年）が、一般部門では、初めての海外旅行で訪れた上海でのトラブルを通じて体験したタクシードライバーとの触れ合いを紹介した東京都代表の太田奈緒未さん（専門学生）がそれぞれ第 1 位に輝いた。僅差となった大学生部門では、吉林省での半年間の留学中に自身と中国との距離を縮めてくれた「温もり」を感じたエピソードを語った兵庫県代表の山本果歩さん（神戸市外国語大学 4 年）が第 1 位となり、全入賞者の中から最も優秀な人に贈られる日中友好協会会長賞も受賞した。

### 1 1. 丹羽宇一郎奨学金

- (1) 2017 年度は、3 名の在日中国人留学生に奨学金の支給を行った。
- (2) 2018 年度に奨学金の支給を希望する在日中国人留学生の募集と選考を行った。
  - 11 月 10 日～17 日 応募受付（応募者数 91 名）
    - 書類審査
    - 3 月 3 日 面接試験（3 名を内定）

### 1 2. 日中友好 7 団体等との提携事業

- (1) 日中友好 7 団体提携
  - 5 月 30 日＊楊潔篋国務委員歓迎会夕食会
  - 1 月 22 日＊中国全人代陳竺副委員長一行との懇談夕食会
  - 2 月 8 日＊2018 年中国大使館・日中友好団体新年会
  
- (2) 後援・協力は公演・展覧会等 67 件

### 1 3. 組織の充実・発展に関する事業等

- (1) ホームページ・インターネットの積極的な活用
  - ホームページを開設している県協会は 25 県協会（前年比増減なし）メールアドレスを持っている
  - 県協会は 31 県協会（前年比 1 増）であった。一定の事柄については、メールでの連絡を行っている。
- (2) 出版と会合等の開催
  - ① 会報「日本と中国」は毎月 1 日付け、12 回発行。（2018 年 1 月より全カラー）
  - ② 「友好手帳」2018 年版を 9 月に発行。
  - ③ 平山郁夫作品カレンダー2018 は 11 月～12 月に発売。
  - ④ 1 月 18 日、2018 年日中友好新年会（(NPO) 東京都日中友好協会と共催）を開催。

以 上